

資料

子どもの戸外遊びの実態と遊びに対する子どもと 保護者の意識

—中国・内モンゴル呼和浩特市の小学校を事例として—

婭 茹, 中山 徹, 室崎 生子*

(奈良女子大学大学院人間文化研究科, *子どもの発達と住まい・まち研究室主宰)

原稿受付平成19年12月5日; 原稿受理平成20年6月7日

Actual Conditions of the Children's Outdoor Play and Their Guardians' Attitude to the Play

—A Case of Elementary Schools in Hohhot in Inner Mongolia, China—

Yaru, Toru NAKAYAMA and Ikuko MUROSAKI*

Graduate School of Humanities and Sciences, Nara Women's University, Nara 630-8506

**House and Town Planning Laboratory for Child Development, Kyoto 606-8326*

Inner Mongolia in northern China has been achieving remarkable development in economy and urbanization. Accordingly, the conditions involving children's play have been changing heavily, affecting their lives. In this study, we took up Hohhot, the center of politics, economy and culture of Inner Mongolia. Two average six-year elementary schools were selected for study. The targets of our questionnaire survey were the second and fifth graders as well as their guardians. The purpose of the investigation was two-fold; 1) to grasp the actual condition of the outdoor play after school as well as on Saturdays and Sundays, and 2) to grasp the attitudes of children and their guardians toward the play. The actual conditions including play time, play group and play space as well as the attitudes of children and their guardians toward the play led us to believe that the problems, which had been pointed out in Japan, such as the decrease of play time, the downsizing of play group, and the increase of indoor play had eventuated also in Hohhot in Inner Mongolia. Furthermore, we found that the downsizing of play group there was more serious than in Japan and that the participation of the guardians in the play of children was quite large there. We think that we need to continue our study of the children's play more in detail.

(Received December 5, 2007; Accepted in revised form June 7, 2008)

Keywords: children 子ども, play 遊び, guardian 保護者, attitudes 意識, China 中国, Inner Mongolia 内モンゴル.

1. 研究の背景と目的

内モンゴル自治区は、中国北部の辺境地域に位置し、経済の発展は比較的遅れている地域である。しかし近年、経済の高度発展に伴い、都市化が急速に進行し(図1)、自然環境の減少や自動車の増加がみられる。また、平屋から楼房*1への建て替えの促進により、5、

6階建ての住棟が一般的な町並みを構成している。高層マンションは現時点では数えるほどであるが、建設中の高層マンションが相次いでおり、今後増加すると予測される。さらに、学歴偏重社会による教育熱の高まり、塾や習い事に通う子どもの増加、生活水準の上昇による家庭でのテレビやコンピューターの普及、室内遊び道具の多様化など子どもの生活が大きく変化した。以上の子どもにみられる生活の変化は、内モンゴ

*1 2階建て以上の中高層住宅。

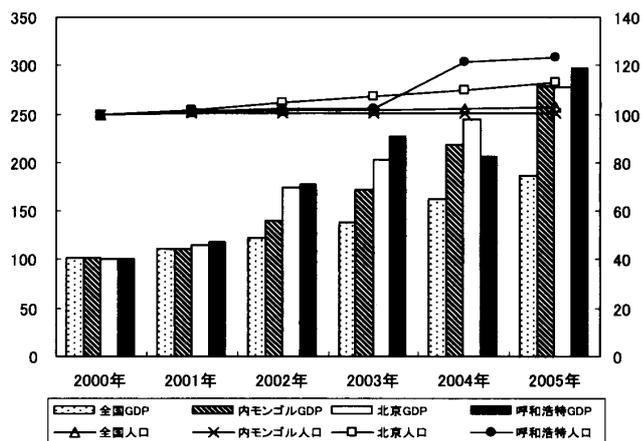


図1. GDP指数と人口指数の変化 (2000年=100とした場合)

全国・内モンゴル・北京のGDPは「2002と2007中国統計年鑑」、人口は「2006中国人口統計年鑑」、呼和浩特市のGDPと人口は「2001～2006内モンゴル統計年鑑」を元に作成。

ル自治区において、特に都市部で顕著に現れている。このような環境の中で、子どもの成長に重要な役割を果たしている遊びに影響が出ていると考えられる。

中国国内においては李ら¹⁾の遊び空間構成の分析、張²⁾の居住区における子どもの遊び環境の設計についての研究がある。日本においては、木下ら³⁾の東京と北京の居住形態からみた子どもの遊び環境に関する研究、楊ら⁴⁾⁵⁾の北京の子どもの遊び環境に関する研究があるが、いずれも、本研究の着目している子どもの戸外遊び実態と遊びに対する意識・評価を扱ったものではない。日本国内の研究では、子どもの遊びにおける問題点⁶⁾として①室内遊び(特にテレビゲーム)の増加、②多様な集団遊びの衰退、③自然遊びの減少等々が指摘されてきた。これらの問題は今後、内モンゴルの都市部において発生・深刻化することが懸念される。

経済成長が急速に進んでいる内モンゴル自治区では、子どもの遊びを巡る状況が変化し、子どもの生活そのものに大きな影響を与える恐れがあるが、そのような遊び実態・意識に着目した研究は見当たらない。本研究では、経済成長、都市化が進む内モンゴル自治区で、今後国内の子どもの遊びに関する研究者並びに呼和浩特市や中国の他地方都市での子どもの遊び計画の立案に役立つ基礎的な資料に資することを目的とする。具体的には、内モンゴル自治区の政治、経済、文化の中心・区都である呼和浩特(フホト)市を対象とし、①放課後と休日(土、日曜日)の戸外における子ど

もの遊び実態を把握すること、②遊びに対する子どもの意識及び保護者の意識を把握することを目的とする。

2. 調査の概要

(1) 調査の方法

本稿では、内モンゴル自治区の子どもの生活の変化は、特に、都市部において顕著なため、政治、経済、文化の中心・区都であるフホト市を対象地域として、市内の一般的な2小学校(6年制)を選び、低学年2年生と高学年5年生及びその保護者を対象として、2005年9月に質問紙調査を行った。調査は児童対象調査と保護者対象調査の2種類である。児童対象質問紙調査は児童自身で記入するのは難しいため自宅に持ち帰り、子どもに聞き取りながら保護者に記入してもらった。保護者対象質問紙調査は、同居している保護者に記入してもらった。質問紙の配布数は児童調査票と保護者調査票とも500部、回収数は403部(児童)、365部(保護者)で、それぞれの有効回答率は80.6%と73%である。

質問紙は、小学校の協力を得て先生から学校で配布してもらい、回収も小学校を通じて行った。

(2) 調査の項目

調査の項目は以下の通りである。

1) 児童質問紙の項目

- a. 子どもの遊び時間、塾・習い事の有無と曜日、内容。平日の1日の室内と戸外遊び時間と土、日曜日の室内と戸外遊び時間。
 - b. 子どもの遊び集団(いつも遊ぶ人数、よく遊ぶ相手、遊び仲間)。
 - c. 遊び内容(好きな遊び、よくする遊び、外でしたい遊び)。
 - d. 遊び場(外遊び頻度、遊び場の利用頻度、秘密基地の有無)と遊び場に対する要望。
 - e. 遊び時間に対する5段階評価。
 - f. 外遊びに対する関心度(3選択肢)、外で遊べないことの有無とその理由。
 - g. 近所の遊び場に対する5段階評価とその理由。
 - h. 遊び環境に対する意見。
- #### 2) 保護者アンケート調査票の項目
- a. 子どもの遊び時間(4段階評価)。
 - b. 子どもの外遊びに対する意識(5選択肢)。
 - c. 近所の遊び場に対する5段階評価とその理由。
 - d. 子どもの外遊びに対する日常的な配慮。

子どもの戸外遊びの実態と遊びに対する子どもと保護者の意識

表1. 児童の基本属性

		全体		学年別			
				2年生		5年生	
		人	%	人	%	人	%
性別	男子	203	50.4	92	49.2	111	51.4
	女子	200	49.6	95	50.8	105	48.6
年齢の平均値		10.0歳		8.5歳		11.0歳	
家族人数	3人	262	65.0	122	65.2	140	64.8
	3人以上	141	35.0	65	34.8	76	35.2
合計		403	100	187	100	216	100
横%		100%		46.4%		53.6%	

表2. 保護者の基本属性 (N=365)

保護者(人数/比率)			年齢別(人数/比率)		
父	131	35.9%	20代	10	2.7%
母	209	57.3%	30代	276	75.6%
その他	18	4.9%	40代	64	17.5%
不明	7	1.9%	50代以上	9	2.5%
			不明	6	1.6%

e. 遊び環境に対する意見.

(3) 回答者の基本属性

児童回答者の総人数は403人, うち2年生46.4% (男92人, 女95人), 5年生53.6% (男111人, 女105人)である.

家族人数をみると, 3人家族^{*2}が65.0%と最も高い割合を占める(表1).

保護者回答者は365人のうちに母の回答は57.3% (209人)と最も多く, 次いで, 父35.9% (131人)となっており, その他は祖父母や叔母などで, 4.9% (18人)である. 年齢は30代が75.6% (276人)と高い割合を占める(表2).

3. 遊び実態

(1) 遊び時間

1) 塾・習い事に通う状況

塾・習い事については, 403人のうち「通っていない」は2年生65人, 5年生50人で, 両学年とも少数であり, 多数の子どもが塾や習い事に通っていることがわかる(表3). また, 塾・習い事に通う曜日をみると, 両学年とも土曜日が最も多く, 次いで日曜日となっている. 平日(月~金曜日)でも少人数が塾・習い事に通っている. 週に塾・習い事に通う平均回数は, 2年生1.4回で, 5年生が1.6回である(表3). さらに, 塾・習い事の内容をみると(上位5位), 「英語」が1位, 2位は2年生と5年生がそれぞれ「美術」とオ

^{*2} 3人家族の中に, 核家族が98.9% (259人), その他(「子どもと母と祖母」1人, 「子どもと姉と祖母」1人, 「子どもと祖父母」1人)が1.1%である.

表3. 塾・習い事に関して

塾・習い事に通う状況 N=402【SA】

	通っていない(人/%)		通っている(人/%)		合計
2年生	65	34.9%	121	65.1%	186
5年生	50	23.1%	166	76.9%	216
全体	115	28.6%	287	71.4%	402

塾・習い事に通う曜日 N=287【MA】(人数)

曜日	月	火	水	木	金	土	日	平均値
2年生 N=121	3	5	4	-	4	87	70	1.4回
5年生 N=166	5	3	8	5	11	136	99	1.6回

塾・習い事の内容 N=287【MA】(人数)

順位	1位	2位	3位	4位	5位
2年生 N=121	英語(46)	美術(28)	作文(18)	舞踊(16)	楽器(15)
5年生 N=166	英語(109)	数学(88)	楽器(19)	作文(12)	美術(10)

表4. 平日及び土, 日曜日の遊び時間【SA】(人数)

	室内				戸外			
	平日		土, 日曜日		平日		土, 日曜日	
	2年 N=162	5年 N=207	2年 N=158	5年 N=206	2年 N=158	5年 N=207	2年 N=154	5年 N=205
1時間以内	69	103	28	59	82	126	33	66
1~2時間	54	58	44	42	42	43	41	56
2~3時間	23	23	40	58	10	19	47	48
3時間以上	8	13	43	44	6	9	32	31
遊んでない	8	10	3	3	18	10	1	4

表5. 遊ぶ人数(自分を含め)【SA】(人数)

人数(人)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	13
2年生 N=186	16	96	69	3	-	-	1	-	-	1	-
5年生 N=216	13	99	80	7	2	4	1	6	1	2	1
全体 N=402	29	195	149	10	2	4	2	6	1	3	1

リンピック数学, 暗算といった「数学」である(表3). 英語に対する関心度が非常に高い.

2) 平日・週末の遊び時間

平日は学校があるため, 子どもが遊べる時間帯は学校の休憩時間と放課後の時間である. 本調査では, 学校以外の放課後の遊び時間について尋ねた(表4). 平日において, 室内遊び時間と戸外遊び時間とも「1時間以内」が一番多く, 2年生の戸外で「遊んでない」子どもがやや多くみられる. 土, 日曜日は室内と戸外遊び時間のいずれも多くなっている.

(2) 遊び集団

1) 遊び人数

自分を含めいつも何人ぐらいで遊んでいるのかを尋ねると, 2, 5年生とも「2人」が最も多く, 次いで「3人」である(表5). 子どもの遊び集団は2, 3人に集中(85.6%, 344人)しており, 「4人」以上と遊ぶ子どもはわずかである. 子どもの遊び集団は小規模だといえる.

2) 遊び相手

子どもがよく遊ぶ相手を「1人」, 「友達」, 「きょうだい」, 「父母」, 「祖父母」に分けた(表6)。全体では、「友達」83.9%, 「父母」27.8%, 「きょうだい」*³ 19.5%の順で割合が高い。学年別にみても同様の傾向がみられる。

3) 遊び仲間

子どもが友達と遊ぶ時に約束するかどうかは表7の通りである。全体では、「たまに約束する」が45.7%と一番高い割合を占め、「約束しない」で遊ぶ子どもは3割未満である。2年生では「約束しない」が39.9%と高い割合を占めるが、5年生では16.7%にすぎない。

友達同士の家の行き来については、全体で「たまにする」58.3%, 「ほとんどしない」29.9%, 「よくする」11.8%となっている。学年別でも同様の傾向がみられ、「よくする」子どもは少数である(表8)。

学校以外で友達と遊べるかどうかについて表9をみると、全体では「たまに遊ぶ」が39.7%と一番多く、次いで「よく遊ぶ」38.7%, 「ほとんど遊ばない」21.2%であった。2年生では「よく遊ぶ」が47.3%と一番多いが、5年生になると「たまに遊ぶ」が45.6%と一番高い割合を占める。

学校以外で友達と「ほとんど遊ばない」子どもが2割前後いるが、その理由をみると(表10), 2年生, 5年生とも「勉強が忙しいので、時間が無い」と「近所に友達がいない」が多かった。

(3) 遊び内容

好きな遊び, よくする遊び, 戸外でしたい遊びに分けて尋ねた。その結果, 隠れん坊, 追いかけてっこ, 玉投げなどの集団遊び, 棋類といった室内遊び, バドミントンやサッカーのボール遊びなどが挙げられた。ここでは, 上位3位までを取り上げる。

1) 好きな遊び

子どもの好きな遊びをみると(表11), 全体では, 「隠れん坊」45% (167人) が1位, 「ボール遊び」28% (104人) が2位, 「ゴムとび」と「縄とび」とも15.1% (56人) が3位で, すべて戸外遊びである。

学年別でみると, 1, 2位は全体と同じである。しかし, 3位は2年生が「縄とび」(16.6%)の戸外遊び, 5年生が「電子ゲーム」(18.3%)であった。高学年の方がテレビゲームやコンピューターゲームなど

*³ いとこを含む。

表6. 遊び相手【MA】(人数/比率)

	全体 N=385		2年生 N=170		5年生 N=215	
友達	323	83.9%	136	80.0%	187	87.0%
父母	107	27.8%	51	30.0%	56	26.0%
きょうだい	75	19.5%	32	18.8%	43	20.0%
1人	36	9.4%	13	7.6%	23	10.7%
祖父母	14	3.6%	6	3.5%	8	3.7%
その他	4	1.0%	2	1.2%	2	0.9%

表7. 友達と遊ぶ時の約束有無【SA】(人数/比率)

	いつも約束する		たまに約束する		約束しない	
2年生 N=183	38	20.8%	72	39.3%	73	39.9%
5年生 N=215	69	32.1%	110	51.2%	36	16.7%
全体 N=398	107	26.9%	182	45.7%	109	27.4%

表8. 友達同士の家の行き来【SA】(人数/比率)

学年	よくする		たまにする		ほとんどしない	
2年生 N=182	24	13.2%	100	54.9%	58	31.9%
5年生 N=216	23	10.6%	132	61.1%	61	28.2%
全体 N=398	47	11.8%	232	58.3%	119	29.9%

表9. 学校以外で友達と遊ぶ状況【SA】(人数/比率)

学年	よく遊ぶ		たまに遊ぶ		ほとんど遊ばない		その他	
2年生 N=186	88	47.3%	61	32.8%	36	19.4%	1	0.5%
5年生 N=215	67	31.2%	98	45.6%	49	22.8%	1	0.5%
全体 N=401	155	38.7%	159	39.7%	85	21.2%	2	0.5%

表10. 遊ばない理由【SA】

	学年		全体 N=78	
	2年生 N=33	5年生 N=45		
勉強が忙しいので、時間が無い	13	39.4%	32	41.0%
近所に友達がいない	15	45.5%	32	41.0%
その他	4	12.1%	10	12.8%
友達を作るのが嫌い	1	3.0%	4	5.1%
合計	33	100.0%	78	100.0%

注：不明を除く

の電子ゲームを好む。

2) よくする遊び

子どものよくする遊びをみると(表11), 全体では「隠れん坊」が35.6% (135人) で1位, 「追いかけてっこ」32.5% (123人), 「テレビ」28.2% (107人) が2, 3位となっている。

学年別でみると, 2年生は「追いかけてっこ」42.5% (71人), 「隠れん坊」41.3% (69人), 「テレビ」19.2% (32人) の順で割合が高い。5年生は「テレビ」が35.4% (75人) と1位で, 2位, 3位は戸外の集団遊びである「隠れん坊」31.1% (66人), 「追いかけてっこ」24.5% (52人) と続いている。高学年の「よくする遊び内容」は室内化傾向が強い。

3) 外でしたい遊び

子どもが外でしたい遊びをみると(表11), 全体では「ボール遊び」が58.6% (214人) で, 1位を占め

子どもの戸外遊びの実態と遊びに対する子どもと保護者の意識

る。次に「ゴムとび」、「隠れん坊」が続いている。

2, 5年生とも, 1, 2位は全体と同じだが, 3位はそれぞれ「隠れん坊」と「自転車」となっている。

外でしたい遊びは「ボール遊び」が圧倒的に多く, 特に5年生に好まれている。「ボール遊び」は好きな遊びと外でしたい遊びでは上位にあるが, よくする遊びでは上位ではないことから, ボール遊びができない状況があることが推測される。

(4) 遊び場

1) 外遊び頻度

子どもの外遊び頻度(表12)をみると, 全体的では「たまに遊ぶ」(44%), 「よく遊ぶ」(40.2%), 「ほとんど遊ばない」(15.9%)の順である。学年別で見ると, 2年生は「よく遊ぶ」(52.3%), 「たまに遊ぶ」(36.9%)の順で割合が高いが, 5年生は「たまに遊ぶ」(49.8%), 「よく遊ぶ」(30.2%)の順で割合が高く, 「ほとんど遊ばない」の割合も2年生より9.2%高い。高学年になるほど, 外遊び頻度が減少している。

外遊び頻度別に理由をみると, 「よく遊ぶ」は「友達と一緒に遊べるから」など自発的に遊びを楽しんでいる理由が多く, 「たまに遊ぶ」「ほとんど遊ばない」には「時間があつたから」や「宿題や授業で時間がないから」などの条件的な理由が多く挙げられた(表13)。

2) よく遊ぶ場所

子どもによく遊ぶ場所を自由に三つまで回答してもらった(表14)。全体では「家の中」が最も多く, 次いで「空地」, 3位は「棟と棟の間の道路」である。学年別にみると, 両学年とも「家の中」が1位である。戸外遊び場としては「棟と棟の間の道路」, 「空地」が多く利用されている。

3) 秘密基地の有無

都市化の進行に伴い, 秘密基地を造るなど自由に遊べる空地や隠れ場所が少なくなっていると予測されるが, 現状では秘密基地の有無は(表15), 全体では「ない」が74.8%, 「ある」が25.3%であった。学年別でも, 同様の傾向がみられた。

秘密基地で友達と遊んでいる子どもの遊び内容は, 「昆虫採集」, 「木の葉採集」, 「水遊び」といった「自然遊び」, また, 「壁登り」, 「木登り」, 「料理を作る」, 「石投げ」, 「秘密の通路を造る」など普段あまりできない遊びが挙げられていた。

表11. 遊び内容【MA】

	好きな遊び N=371 2年 N=163 5年 N=208		よくする遊び N=379 2年 N=167 5年 N=212		外でしたい遊び N=365 2年 N=160 5年 N=205	
	遊び内容	人数	遊び内容	人数	遊び内容	人数
1位	全体	隠れん坊 167	隠れん坊	135	ボール	214
	2年生	隠れん坊 83	追っかけ	71	ボール	84
	5年生	隠れん坊 84	テレビ	75	ボール	130
2位	全体	ボール 104	追っかけ	123	ゴムとび	78
	2年生	ボール 37	隠れん坊	69	ゴムとび	37
	5年生	ボール 67	隠れん坊	66	ゴムとび	41
3位	全体	ゴムとび 縄跳び 56	テレビ	107	隠れん坊	39
	2年生	縄跳び 27	テレビ	32	隠れん坊	24
	5年生	電子ゲーム 38	追っかけ	52	自転車	17

表12. 外遊び頻度【SA】(人数/比率)

	よく遊ぶ		たまに遊ぶ		ほとんど遊ばない	
2年生 N=176	92	52.3%	65	36.9%	19	10.8%
5年生 N=215	65	30.2%	107	49.8%	43	20.0%
全体 N=391	157	40.2%	172	44.0%	62	15.9%

表13. 外遊び頻度の理由【MA】

よく遊ぶ理由	2年 N=92		5年 N=65		全体 N=157	
	友達と一緒に遊べるから	49	34	83		
面白い遊びができるから	30	22	52			
熱中して遊べるから	30	15	45			
その他	5	3	8			
偶に遊ぶ理由	2年 N=65		5年 N=107		全体 N=172	
	時間があつたから	36	70	106		
	親に言われたから	6	16	22		
	その他	7	13	20		
一人で家にいるから	10	9	19			
ほとんど遊ばない理由	2年 N=19		5年 N=43		全体 N=62	
	宿題, 授業で, 時間ない	8	25	33		
	友達がいないから	5	8	13		
	近くに遊び場がないから	5	9	13		
	その他	1	8	9		

表14. 遊び場の利用頻度【MA】

順位	全体 N=371		2年生 N=157		5年生 N=214	
	遊び場所	人数	遊び場所	人数	遊び場所	人数
1	家の中	128	家の中	47	家の中	81
2	空地	101	棟と棟の間	40	空地	70
3	棟と棟の間	86	空地	31	棟と棟の間	44

表15. 秘密基地の有無【SA】(人数/比率)

	ある		ない	
2年生 N=184	47	25.5%	137	74.5%
5年生 N=216	54	25.0%	162	75.0%
全体 N=400	101	25.3%	299	74.8%

4. 遊び場に対する要望

子どもの遊び場に対する要望を自由記述方式で尋ねた。回答者の記述した内容をまとめたものが表16である。

子どもが精一杯走れる, 自由自在に遊べる「広さ」への要望が61.1%と最も多く, 次いで, 「スポーツができる」が32.7%と上位であり, これらは特に高学

年に多い。「豊富な遊具施設がある」が26.7%となっている。また、「自然がある」、「安全性」、「清潔である」、「たくさんの友達がいる」などの要望があった。「豊富な遊具施設がある」、「自然がある」の要望は低学年に多い。

5. 遊び時間に対する評価

(1) 子ども自身による評価

子ども自身に遊び時間を5段階で評価してもらった(表17)。全体では「満足」が45%を越え、「やや満足」と合わせると65%を越えた。学年別でも、同様な傾向がみられ、過半数の子どもが现阶段の遊び時間に満足している。それに対し、約20%の子どもが「やや不満」もしくは「不満」と答えている。

(2) 保護者による評価

保護者に子どもの遊び時間を4段階で評価してもらった(表18)。「のびのび遊んでいると思う」51.0%(186人)が最も多く、次いで「もっとのびのびと遊んで欲しい」19.7%(72人)、「特に問題はないと思う」18.4%(67人)、「遊びすぎだと思う」11.0%(40人)となった。

表16. 遊び場に対する要望【MA】(人数/比率)

項目	学年				全体 N=303	
	2年生 N=123		5年生 N=180			
広さ	66	53.7%	119	66.1%	185	61.1%
スポーツができる	30	24.4%	69	38.3%	99	32.7%
豊富な遊具施設がある	38	30.9%	43	23.9%	81	26.7%
自然がある	25	20.3%	17	9.4%	42	13.9%
安全性	11	8.9%	19	10.6%	30	9.9%
清潔である	8	6.5%	10	5.6%	18	5.9%
たくさん友達がいる	6	4.9%	7	3.9%	13	4.3%

表17. 子どもによる遊び時間に対する評価【SA】(人数/比率)

	満足		やや満足		何とも 思わない		やや不満		不満	
2年生 N=172	80	46.5%	43	25.0%	9	5.2%	26	15.1%	14	8.1%
5年生 N=215	100	46.5%	38	17.7%	43	20.0%	22	10.2%	12	5.6%
全体 N=387	180	46.5%	81	20.9%	52	13.4%	48	12.4%	26	6.7%

表18. 保護者による遊び時間に対する評価(N=365)【SA】

	人数	比率
のびのび遊んでいると思う	186	51.0%
もっとのびのびと遊んで欲しい	72	19.7%
特に問題はないと思う	67	18.4%
遊びすぎだと思う	40	11.0%
合計	365	100.0%

6. 戸外遊びに対する意識・評価

(1) 子どもの外遊びに対する関心度

子どもの外遊びに対する関心度を「好き」、「普通」、「嫌い」の3段階で尋ねた(表19)。全体では「好き」が66.2%で最多で、「普通」は30.1%であり、外遊びに対する関心度は高い。学年別にみると、順位は全体と同様であるが、「好き」の割合は2年生の方が5年生より20%高い。また、5年生の「普通」、「嫌い」の割合は2年生よりそれぞれ17.2%と2.9%高い。高学年になるほど外遊びに対する関心度が弱まっている。

外遊び好きと答えた子ども(表19)が実際の程度、外で遊んでいるか(表12)をみると「よく遊ぶ」は49.8%で、「たまに遊ぶ」が40.8%、「ほとんど遊ばない」も9.4%存在した(表20)。

さらに、子どもに外で遊びたいけれども遊べないことがあるかを尋ねた(表21)。全体では、「ある」が65.6%と多く、「ない」が34.4%である。学年別にみても同様の傾向である。

外で遊べない理由をみると(表22)、全体では「親が遊んではいけないという」が42.2%と最も多く、

表19. 外遊びへの関心度【SA】(人数/比率)

	好き		普通		嫌い	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率
2年生 N=183	141	77.0%	38	20.8%	4	2.2%
5年生 N=216	123	56.9%	82	38.0%	11	5.1%
全体 N=399	264	66.2%	120	30.1%	15	3.8%

表20. 外遊びが好きなお子どもの外遊び頻度(N=255)【SA】(人数/比率)

外遊び頻度	よく遊ぶ N=127	たまに遊ぶ N=104	ほとんど遊ばない N=24			
外遊びが好き	127	49.8%	104	40.8%	24	9.4%

表21. 外で遊べないことの有無【SA】(人数/比率)

	ある		ない	
	人数	比率	人数	比率
2年生 N=185	124	67.0%	61	33.0%
5年生 N=216	139	64.4%	77	35.6%
全体 N=401	263	65.6%	138	34.4%

表22. 外で遊べない理由【MA】(人数/比率)

	2年生 N=124		5年生 N=139		全体 N=263	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率
親が遊んではいけないという	50	40.3%	61	43.9%	111	42.2%
時間がない	34	27.4%	41	29.5%	75	28.5%
危ないから	32	25.8%	25	18.0%	57	21.7%
遊び場がない	20	16.1%	19	13.7%	39	14.8%
友達がいない	13	10.5%	17	12.2%	30	11.4%
その他	1	0.8%	7	5.0%	8	3.0%

子どもの戸外遊びの実態と遊びに対する子どもと保護者の意識

表 23. 子どもの外遊びに対する保護者の意識
(N=365) 【MA】

選択肢内容	人数	比率
適当な外遊びは子どもの成長によい	306	83.8%
危険である	77	21.1%
子どもの成績に悪い影響を及ぼす	29	7.9%
何とも思わない	15	4.1%
その他	3	0.8%

表 24. 子どもによる遊び場評価 (N=392) 【SA】
(人数/比率)

	2年生 N=176		5年生 N=216		全体 N=392	
満足	48	27.3%	46	21.3%	94	24.0%
やや満足	45	25.6%	73	33.8%	118	30.1%
何とも思わない	14	8.0%	22	10.2%	36	9.2%
やや不満	35	19.9%	35	16.2%	70	17.9%
不満	34	19.3%	40	18.5%	74	18.9%

次いで「時間がない」28.5%、「危ないから」21.7%、「遊び場がない」14.8%、「友達がいない」11.4%となっている。

学年別にみると、「親が遊んではいけないという」2年生40.3%、5年生43.9%で、「時間がない」2年生27.4%、5年生29.5%、「危ない」2年生25.8%、5年生18%の順で割合が高く、全体と同様の傾向を示している。

(2) 子どもの外遊びに対する保護者の意識

保護者に子どもの外遊びに関して、5選択肢を用意して尋ねた(表23)。「適当な外遊びは子どもの成長によい」が83.8%と最も多く、次いで「危険である」21.1%、「子どもの成績に悪い影響を及ぼす」7.9%、「何とも思わない」4.1%、「その他」0.8%であった。多数の保護者が適当な外遊びは子どもの成長によいという意識を持っていることがわかる。一方で、危険や子どもの成績に悪い影響を及ぼすという意識を持つ保護者も存在している。

7. 遊び場に対する評価

(1) 子どもによる評価

子どもに近所の遊び場を5段階で評価してもらった(表24)。全体では「やや満足」30.1%、「満足」24%、「不満」18.9%、「やや不満」17.9%、「何とも思わない」9.2%の順であった。

学年別にみると、2年生「満足」27.3%、「やや満足」25.6%、「やや不満」19.9%、「不満」19.3%、「何とも思わない」8%の順で、5年生「やや満足」33.8%、「満足」21.3%、「不満」18.5%、「やや不満」

表 25. 遊び場に対する満足の理由【MA】
(人数/比率)

	2年 N=93		5年 N=119		全体 N=212	
家より近い	55	59.1%	72	60.5%	127	59.9%
安全	51	54.8%	30	25.2%	81	38.2%
広い	21	22.6%	45	37.8%	66	31.1%
遊具施設有	20	21.5%	33	27.7%	53	25.0%
その他	-	-	1	0.8%	1	0.5%

表 26. 遊び場に対する不満の理由【MA】
(人数/比率)

	2年 N=69		5年 N=75		全体 N=144	
近くに遊び場がない	33	47.8%	32	42.7%	65	45.1%
遊具施設がない	35	50.7%	25	33.3%	60	41.7%
危険	23	33.3%	22	29.3%	45	31.3%
狭い	17	24.6%	7	9.3%	24	16.7%
その他	1	1.4%	9	12.0%	10	6.9%

表 27. 保護者による遊び場評価
(N=362) 【SA】 (人数/比率)

満足	42	11.6%
やや満足	87	24.0%
何とも思わない	31	8.6%
やや不満	101	27.9%
不満	101	27.9%

16.2%、「何とも思わない」10.2%の順であった。「満足」と「やや満足」を合わせると、2年生(52.9%)、5年生(55.1%)とも半数を越え、近所の遊び場に対して満足していることがわかる。ただし、「不満」と「やや不満」と答えている子どもも両学年とも30%を越えている。

次に、近所の遊び場に対する満足や不満の理由を尋ねた(表25, 26)。「家より近い」(59.9%)、「安全」(38.2%)、「広い」(31.1%)、「遊具施設がある」(25%)などが満足の理由に挙げられた。逆に、「家の近くに遊び場がない」(45.1%)、「遊具施設がない」(41.7%)、「狭い」(16.7%)などが不満の理由に挙げられた。

(2) 保護者による評価

保護者にも、近所の遊び場を5段階で評価してもらった(表27)。「不満」と「やや不満」がともに27.9%で合わせると過半数を越え、「やや満足」と「満足」と答えた保護者は35.6%である。「何とも思わない」8.6%であった。

「満足」と「不満」の理由をみると(表28, 29)、「家より近い」(63.6%)、「安全」(50.4%)、「広い」

表 28. 遊び場に対する満足の理由
(N=129) 【MA】 (人数/比率)

	人数	比率
家より近い	82	63.6%
安全	65	50.4%
広い	45	34.9%
遊具施設がある	34	26.4%

表 29. 遊び場に対する不満の理由
(N=202) 【MA】 (人数/比率)

	人数	比率
近くに遊び場がない	113	55.9%
遊具施設がない	102	50.5%
狭い	54	26.7%
危険	54	26.7%
その他	4	2.0%

表 30. 子どもの遊びに対して一番関心を持つこと
(N=358) 【MA】 (人数/比率)

	人数	比率
安全性	272	76.0%
創造性を啓発できる	227	63.4%
友達が作れる	112	31.3%
楽しく遊べる	102	28.5%
その他	2	0.6%

(34.9%) などが満足の理由として挙げられた。一方、「家の近くに遊び場がない」(55.9%)、「遊具施設がない」(50.5%)、「狭い」と「危険」(26.7%) などが不満の理由として挙げられた。

近所の遊び場に対する評価では、子どもの過半数が満足(やや満足を含む)という結果に対し、保護者による評価では逆に不満(やや不満)が過半数であった。満足と不満の理由として家からの距離が最も関係していた。

8. 子どもの外遊びに対する日常の配慮

(1) 子どもの外遊びに対し一番関心のあること

保護者に子どもの外遊びについて、一番関心を持っていることを尋ねた(表 30)。「安全性」76%が一番多く、次いで「創造性を啓発できる」63.4%、「友達を作れる」31.3%、「楽しく遊べる」28.5%であった。

(2) 外遊びの際、心配なことの有無

保護者に子どもが外遊びの際、心配なことの有無を尋ねた。「ある」が85.2%で「ない」は14.8%である。さらに、保護者に心配なことを自由記入方式で回答してもらった。記述された内容をまとめたものが表 31 である。交通、誘拐、遊具に関する「安全性」が最も高い割合を占める。また、「友達と喧嘩すること」、「遊び内容」なども挙げられた。

表 31. 子どもの外遊びの際に心配なこと
(N=305) 【MA】 (人数/比率)

記述した内容	人数	比率
安全性	290	95.1%
友達と喧嘩すること	37	12.1%
遊び内容	22	7.2%
楽しく遊べること	5	1.6%
その他	5	1.6%

表 32. 外遊びの際に注意すること
(N=356) 【MA】 (人数/比率)

注意する内容	人数	比率
安全に気をつけること	305	85.7%
友達と喧嘩しないこと	188	52.8%
遊びすぎないこと	161	45.2%
その他	4	1.1%

表 33. 遊び環境に対する保護者の自由意見

遊び環境に対する意見	人数
遊び環境に対する基本的要素： 遊び場は広く、安全、清潔であること。	21
よい質の遊びであること： 子どもが遊びを通じて、知力の開発、創造性の啓発、コミュニケーションの能力、心身の発達を促すこと。	10
自然な要素： 芝、植栽、動物、土、砂など自然と触られること。	5
遊具施設： すべり台、回る椅子だけではなく、豊富な遊具施設を整備すること。	5
人的な要素： 子どもの安全を見守る人、遊び場の衛生を管理するといった人を配置すること。	4
その他	3

(3) 子どもの外遊びの際に注意すること

保護者が子どもの外遊びの際、注意すること(表 32)では、「安全に気をつけること」が最も高い。心配なことでは12.1%(表 31)であった「友達と喧嘩しないこと」は52.8%に増え、「遊びすぎないこと」も45.2%ある。

9. 遊び環境に対する意見

保護者の遊び環境に対する意見を自由記述方式で回答してもらった。41人から得た意見を分類した(表 33)。

遊び環境に対しては、空間の広さから自然な要素、豊富な遊具があることと子どもの安全のため人を配置するなどの意見があり、さらに、遊びの質がよいことが期待されている。

子どもの戸外遊びの実態と遊びに対する子どもと保護者の意識

10. まとめ

調査の結果を踏まえ、得た知見は以下の通りである。

(1) 放課後や休日における子どもの戸外遊び実態

1) 塾や習い事に通う子どもは多数あり、主に土、日曜日に集中している。塾・習い事で低・高学年とも英語が1位で英語への関心が高い。平日の室内と戸外遊び時間は1時間以内が子どもの半数あり、これらの子どもはまとまった遊び時間が確保できていない。

2) 子どもの遊び集団は2, 3人に集中しており、小規模である。よく遊ぶ相手は友達であるが、高学年では約束がなければ遊べない傾向が強まる。友達同士がよく行き来する人数は少数である。2年から5年になると学校外で友達と遊ぶ回数が減っている。子どもの遊び相手をしている親が低・高学年とも2~3割ある。

3) 好きな遊び内容では戸外での身体的な動く遊びが挙げられており、子どもは外遊びが好きであると言える。ところが、よくする遊びでは好きな遊びに出ていないテレビが5年生は1位、全体で3位になるなど実際の遊びに室内化傾向がみられる。

4) 外遊び頻度は高学年になると減少しており、塾や宿題など学習時間の増加が一因と思われる。戸外遊び場は「棟と棟の間の道路」、「空地」が多く利用されている。4人に1人は秘密基地を持ち、そこで子どもが普段あまりできない遊びや冒険的な遊びをしている。子どもの遊び場に対する要望は、自由に遊べる「広さ」が最も高く(61.1%)、次いで「スポーツができる」であった。

(2) 保護者と子どもの遊びに対する意識・評価

1) 遊び時間に満足している子どもは半数以下である。しかし、保護者の半数がのびのびと遊んでいると評価し、問題がないと思う親を入れると7割になる。また、もっとのびのびと遊んで欲しいと思う保護者も約20%いる。

2) 約7割の子どもが、外遊びが「好き」と答えている。しかし、外で遊びたいけれど遊べないことがある子どもが65%を越える、理由は、「親が遊んではいけないという」が一番であった。保護者(7割)は適当な外遊びは子どもの成長によいと肯定的に評価する一方、このように外遊びを規制している。

3) 保護者の85.2%は子どもが外遊びする際に心配を抱いている。中でも一番の心配は安全性であり、子どもへ注意することも「安全に気をつける」が圧倒的に多かった。心配なことでは12.1%(表31)であ

る「友達と喧嘩しないこと」は注意することでは52.8%に増えている。

4) 近所の遊び場に対する評価では、子どもの「満足」(54.1%)の割合が保護者(35.6%)より高かった。保護者・子ども遊び場満足の理由1位は「家から近い」であり、不満の理由の1位は保護者・子ども「家の近くに無い」である。今の遊び場を「家から近い」と満足している子どもは全体の31.5%で、保護者は22.5%である。「家の近くに無い」と不満の子どもは15.1%、保護者は31.0%であった。この比率の差は保護者と子どもの遊び場の距離認識の相違を示していると思われる。おそらく保護者が目の届く範囲という観点から遊び場をみるのが影響しているのではないだろうか。

5) 保護者の遊び環境に対する意見では、遊び場の広さが必要という意見から子どもを見守る人の配置が必要という指摘等があった。

(3) 今後の課題

内モンゴルフホト市における子どもの遊び時間、遊び集団、遊び内容、遊び場についての実態、子どもと保護者双方の遊びに対する意識を把握した結果、日本で子どもの問題としてこれまで指摘されてきた遊び時間の減少、遊び集団の小規模化、室内遊びの増加等類似の問題が既に生じていることが把握された。さらに、遊び集団の小規模化は、日本より深刻であることも把握できた。

内モンゴルでは幼児用の遊び場整備がやっと進み出した段階であり、児童用の遊び場整備は現在着手されていない。今回の調査で明らかになった課題は以下の2点に集約できる。

1) 子どもたちが遊んでいる遊び場の現状は空地や棟と棟の間の道路であり、子どもたちが遊ぶために整備された空間ではない。一方、そういう現状のため4人に1人が秘密基地を持つ遊びができています。しかし、それも都市化の急速な進行につれ、このような秘密基地的な遊び場の減少が懸念される。今後、着手される児童用の遊び場整備にこのようなことをいかに含めるかが課題である。

2) 保護者の意識調査を通じて、子どもの遊び相手になる、塾に通わせる、子どもへの注意などから保護者の子どもへの関心が高いことや保護者が子どもの遊びに影響を与えていることが把握できた。遊びを「創造性が啓発される」と評価しながら、遊び時間が充分でない現状でも、むしろ「遊びすぎる」ことを心配し、

注意している。特に子どもが「好きな遊び」や「外でしたい遊び」を日常の「よくする遊び」においてできていない原因の一つには、外遊びの好きな子どもたちを、外で遊べない状況に追い込むような保護者の関与があると推測される。子どもへの規制を緩めるには安全性の確保が求められる。保護者の子どもの遊びに対する関心が高く、熱心なことは、子どもの遊びの問題の解決や遊び環境の改善のエネルギーとも言え、これらを規制の方向に向わせるのでなくいかに生かしていくかが今後の課題である。

今後、子どもの遊び環境をそのまま放置すれば、さまざまな問題が発生し、深刻化していくと考えられる。内モンゴルの子どもたちが安全で楽しく遊べるような遊び環境整備を至急進めるためにも、子どもたちの遊びに関するさらにきめ細かい実態把握を継続する必要があると考える。

本研究の調査を行うにあたり、現地の小学校、担任

の先生の方々にご協力していただいた。記して謝意を表する。

引用文献

- 1) 李 宇宏, 徐 紹民: 城市児童遊戯場空間構成研究, 新建築, **6**, 13-15 (1999)
- 2) 張 路紅: 在遊戯中成長—試論居住区児童遊戯環境設計, 安徽建築, **4**, 23-25 (2005)
- 3) 木下 勇, 中村 攻: 日・中の首都圏内居住形態からみた子どもの遊び環境に関する事例研究, 日本建築学会計画系論文報告集, **30**, 85-90 (1995)
- 4) 楊 熹微, 仙田 満, 矢田 努, 三輪律江, 井上 寿: 北京におけるこどものあそび環境に関する研究 実態調査結果の全体的分析, 都市計画論文集, **38-3**, 895-900 (2003)
- 5) 楊 熹微, 仙田 満, 矢田 努: こどものあそびの場となる道の特性に関する研究 北京市における観察調査およびインタビュー調査にもとづく分析, 日本建築学会計画系論文集 **509**, 103-110 (2005)
- 6) 建築雑誌, **119**, 46 (2004)